

出石
城下町

伝建かわら版



平成 21 年 12 月 10 日発行 編集／豊岡市教育委員会（文化振興課：TEL0796-23-1160、出石分室：TEL0796-21-9029）

町家の

修理修景基準細則検討会 始まる！

京都府立大・大場教授の講演会を実施
住民、設計士、建築業者などワークショップに熱弁

11月6日夜、伝建かわら版第21号でお知らせしていましたが「修理修景基準細則検討会」の第1回目を開催しました。

当日は保存会役員、出石まちなみ設計士会会員、保存会登録建築業者の方などが集まり、京都府立大学教授大場修先生の基調講演を聴くとともに、班別に分かれて協議しました。

検討会は2月27日まで合計4回開催し、一定の基準細則案をまとめていきたいと考えています。



他地区の事例や出石の町家の特徴などをプロジェクターに映して、わかりやすく講演していただきました。



班別に分かれて意見交換する参加者。ときに笑顔で、ときに真剣にまちづくりへの想いを語ります！

講師の大場先生は、平成元年の「出石 HOPE 計画」策定でご協力いただいて以降、平成 12～13 年度の伝建地区保存対策調査で多大な貢献をいただくと、出石の町家研究の第一人者です。その大場先生から出石の町家の特徴などの話をいただきました。

講演会終了後は、伝建地区内の地区（町家の少ない内町を除く）ごとに調査を行うよう、6つの班に分かれて協議しました。

班別協議では、①出石の町並みとまちづくり ②基準をつくること ③まちの特徴・由来や由緒などについて意見を交換しました。

各班からは、大場先生の講演を聴いて、「出石の建物の個性を感じた。そこに込められた知恵を残していく必要がある。」などと出石の良さを再認識したという意見が多く出されました。また、修理修景基準細則案の作成については、「今後事業を円滑に進めるためには、一定の細則基準が必要」といった意見とともに、「かつての雰囲気を残すような仕上げ方法を検討したい」といった声が寄せられました。

出石まちなみ設計士会により 住宅改修相談者宅調査を実施！

10月31日、出石まちなみ設計士会の会員9名によって、住宅改修相談者の建物4棟の老朽度や修理にかかる工事見積額の実地調査が行われました。

これは、去る9月12日に開催した「住宅改修相談会」に訪れた相談者のなかで、「老朽度や見積額などを調べてほしい」と希望された方があったため、設計士会が自発的にボランティアで調査を行ったものです。

専門家による調査を無償で受けることができ、建物の所有者の方は、大変喜んでおられました。



「大丈夫、土台はしっかりしています！」との設計士の診断を聞いて、ホッと安心できました。

出石の魅力に誘われて この秋も続々と視察団が訪問！

伝建地区に関する視察だけでも、長野市松代地区区長会を始め、大津市坂本学区自治連合会、倉吉市倉吉町並み保存会の方々が視察に訪れました。



倉吉街並み保存会の視察訪問では、出石まちなみ保存会の青山会長と武田前会長に出席いただき、保存会活動などについて意見交換を行いました。

どの団体が訪問されたときも、「出石はいいところですね～」と決まって褒めてくださったのが印象的でした。

文化庁調査官から評価と課題！

11月10日、文化庁の林主任文化財調査官が現地指導のために訪問されました。

今年度の修理事件、来年度の修理（補助金申請）予定物件の現地確認を行い、それぞれの物件の修理方法などについて指導いただきました。

修理方法について職員に指導する林主任文化財調査官（右）



保存会の役員の方々と懇談し、役員からの課題などに答えさせていただきました。

総括では、林主任文化財調査官から「**わりと良く文化財修理ができています。**」と一定の評価をいただきました。

しかし、課題として「**これまでの**（町並み景観に調和させようとしたものの）**中には、民芸調という出石らしくないものがあるので、きちんと整えていくように。**」との指摘を受けました。

保存会役員との懇談では、「**10年くらい事業を続けると町並みが変わってくる。応援もするので、本物の材料、工法などにこだわって、頑張ってください。**」とエールを送っていただきました。

出石まちなみ保存会 北村 秀二 さん（本町）から一言！

城下町出石は但馬の小京都といわれる観光の町です。そして、出石が重要伝建地区に正式決定してから2年経ちました。

都会生活をしていても出石に帰ったとき街並みをのんびりと散歩をして、「ああ、この町が故郷でよかった」と思え、また国民的な文化遺産として評価されたことにも誇りをもちたい。そのためにも行政と住民が一丸となって先人が残してくれた歴史あるまちづくりに取り組んでいくことが大切だと思います。

文化庁
“保存修理”
ロゴマーク

修理現場から

文化力
POWER OF CULTURE